



## 減量・中止基準

ブレンツキシマブ ベドチン(未治療のCD30陽性のホジキンリンパ腫)

### ■ 用量調節(休薬減量基準)

副作用発現時の用量調節又は休薬については、「副作用(p.55~64)」を参照してください。

----- <用法・用量に関連する使用上の注意> (抜粋) -----

(4) 本剤の投与により、副作用が発現した場合には、以下の基準を参考に、本剤を休薬、減量、中止すること。(「重要な基本的注意」、「重大な副作用」の項参照)

末梢神経障害

1) 未治療の CD30 陽性のホジキンリンパ腫

Grade <sup>注5)</sup>	処置
Grade 1 (機能障害はなく、知覚障害、反射消失のみ)	同一用法・用量で、投与を継続する。
Grade 2 (機能障害はあるが、日常生活に支障はない)	0.9mg/kg に減量して投与を継続する。
Grade 3 (日常生活に支障がある)	Grade 2 以下に回復するまで休薬する。回復した場合は、0.9mg/kg に減量して投与を再開する。神経毒性を有する併用薬剤については、各添付文書を参照し、減量を考慮する。
Grade 4 (障害をきたす感覚ニューロパチー、生命を脅かす又は麻痺をきたす運動ニューロパチー)	投与中止する。

好中球減少症(共通)

Grade <sup>注5)</sup>	処置
Grade 1 (LLN 未満 1,500/mm <sup>3</sup> 以上)又は Grade 2 (1,500 未満 1,000/mm <sup>3</sup> 以上)	同一用法・用量で、投与を継続する。
Grade 3 (1,000 未満 500/mm <sup>3</sup> 以上)又は Grade 4 (500/mm <sup>3</sup> 未満)	ベースライン又は Grade 2 以下に回復するまで休薬する。回復後は、同一用法・用量で投与を再開する。

LLN: 基準値下限

注5) Grade は NCI-CTCAE v3.0 に基づく。

## 減量・中止基準

シクロフォスファミド		
副作用	程度	対処法
腎機能障害	Ccr10未満の場合	25%減量
肝機能障害	T-Bil 3.1~5mg/dL または AST 3×ULN超	25%減量
	T-Bil 5mg/dL超	中止
※特徴的禁忌	ペントスタチンを投与中の患者	投与をしてはいけない
ドキシソルビシン		
副作用	程度	対処法
心筋障害	発現時(総投与量が500mg/m2を超えると起こりやすくなる)	中止
肝機能障害	T-Bil 1.5(or1.2)~3mg/dL または AST 60~180IU/L	50%減量
	T-Bil 3.1~5mg/dL または AST 180IU/L超	75%減量
	T-Bil 5mg/dL超	中止
※特徴的禁忌	心機能異常またはその既往歴のある患者	投与をしてはいけない
CHP2薬剤		
副作用	程度	対処法
好中球減少	1500/mm3未満	中止
血小板減少	150000/mm3未満	中止